

<解答例>

【課題1】

- ・雨水がたまっている所からよごれた水をくんで飲み水にしている。
- ・遠くの池や川のよごれた水をくんできている。

【課題2】

- ・病気の原因が汚れた水にあったことを知り、汚れた水を飲む習慣をやめさせなければいけないと思ったから。
- ・今まで知らずに飲んでいた水が、どれほど危険だったのかを説明され、一刻も早く村人に伝えて、この粉できれいな水を飲ませるようにしなければ、と思ったから。
- ・汚れた水が原因で3歳まで生きられない人がいると聞いて、村人や子どもたちが長く生きられるようにしてあげたいと思ったから。

【課題3】

- ①・自分のだ液などを固い土に混ぜ、(土に湿り気を与え) 軟らかくした。
 - ・地中にトンネルを掘り(土の中に空間を作り)、雨水をしみ込ませて、土を軟らかくした。
- ②・布は、雨水を吸って、その雨水がゆっくりと土にしみこむのに役立った。
 - ・ビニールは、土の水分を保つのに役立った。

【課題4】

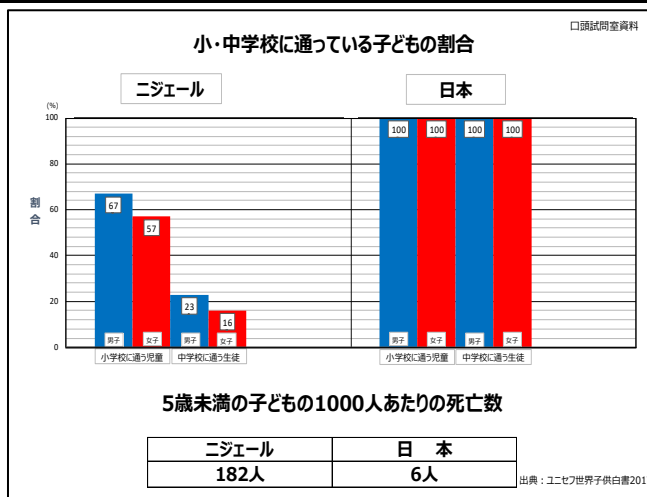
- ①・固い土を畑にかえ、食料を得るための知識を与える援助をした。
 - ・村人が自分たちで食料を得られるようになる方法を教える援助をした。
 - ・シロアリとゴミを使って畑の土を作り、作物の育つ栄養のある畑を作る方法を教える援助をした。
 - ・土を軟らかくして畑を作る方法と、畑を分けて雑草地でフンを集めて畑の肥料にする方法を教える援助をした。
- ②(※二つの援助にはプラス面・マイナス面があり、援助の優劣ではなく、援助される人の立場から二つの援助を対比して答えられているものを正解とした。)
 - ・「食料そのものを与える援助」では、もらった食料は食べてしまったらなくなるので、また食料不足になってしまう。「日本人研究者の行った援助」では、食料を作る方法がわかった ので、自分たちでこれからもずっと作物を作り続けていくことができ、食料不足にならず にすむ。

- ・「食料そのものを与える援助」では、今不足している食料が与えられるので、食料不足はとりあえず解決する。「日本人研究者の行った援助」では、食料を手に入れるまでに時間がかかるので、すぐに問題を解決することはできない。
- ・「食料そのものを与える援助」では、次はいつ・どんな物がもらえるかわからない。「日本人研究者の行った援助」では、人を頼らずに自分たちで必要な食料を作ることができるようになる。

【課題5】 試問室での新たな問題

「開発途上国で必要とされている援助は、水と食料とも一つ、女子教育だ、といわれています。このグラフは、ニジェールと日本の子どもが学校に通っている割合を示したグラフです。日本は男女で差はなく、すべての子どもが学校へ通っていますが、ニジェールでは特に中学校に通っている子どもはとても少なく、さらに男女で差があります。」

「ではここから問題です。開発途上国では、女子が教育を受ければ、5歳未満の子どもの死亡数を大幅に減らすことができる、といわれていますが、それはどうしてだと思いますか。」



(※学校に行ければ、文字の読み書きができるようになり、衛生・病気・栄養に関わる大切な知識を得ることができる。ということが具体的に答えられればよい。)

- ・教育を受ければ読み書きができるようになる。女の子がお母さんになった時、注意書きが読めるので、病気や薬などに注意し、子どもを危険から守ることができる。
- ・病気の正しい知識があると、子どもが病気にならないように予防することができる。
- ・学校で衛生面に気をつけることや栄養の勉強などをするので、子どもを死なせずにすむ。
- ・女子が教育を受けられれば仕事につくことができるので、生活が安定し、子どもの食生活もよくなるので死ななくなる。など